

未来を拓く決意を胸に

▶総代に卒業証書を授与する中村幸弘学長
▼答辞を述べる卒業生代表
(写真はいずれも第43回卒業式より)



二・三六名の旅立ち

学報 新花

國學院大學
栃木短期大学
栃木市平井町608
〒328-8588
TEL0282-22-5511
FAX0282-22-5743
編集 学報編集部

第168号

桜の花ちり／＼にしも
わかれ行く 遠きひとり
と 君もなりなむ
『春のことふれ』釋 遼空

第44回卒業式举行



第44回卒業式は、3月18日午

前10時30分より学園40周年記念

館を式場として来賓・教職員・

ご父母が列席し、厳肅且つ盛大

に執り行われる。

式は、国歌斉唱ではじまり、

中村幸弘学長から各学科の総代

に卒業証書が授与される。

総代をつとめるのは、国文学

科は保坂一美さん、家政学科は

原澤くるみさん、初等教育学科

は佐々木絵理香さん、日本史学

科は荒川優香さん、商学科は梅

津志帆さんである。

中村学長告辞、木村好成学園

理事長祝辞につぎ、福田富一

栃木県知事、本学同窓会「新花

会」を代表し、第8期国文学科

卒業前橋（旧姓笹井）陽子さん

より来賓祝辞をいただく。

在学生を代表し、西村直記新

学生会長（商学科1年）が送辞

を述べ、これに応えて、卒業生

を代表し、蘭部早百合さん（家

政学科）が答辞を述べる。その

後「仰げば尊し」を合唱し、卒業

生よりの記念品目録が中村伸子

前学生会長から中村学長に手渡

される。最後に校歌斉唱、「蛍

の光」を合唱して式を閉じる。

式終了後、各クラス担任から

卒業生一人ひとりに卒業証書が

手渡され、喜びを胸に学舎を巣
立っていく。

佐々木賞を六名に授与

この賞は、佐々木周二学園長
記念奨学金制度を基に作られた
もので、各学科の成績・人物と
もに優秀な者に、賞状とブロン
ズ像（二科会員・鷲崎直子本学
教授制作）が授与される。受賞
者は次の通り。

国文学科 保坂 一美
家政学科 蘭部早百合
家政学科 原澤くるみ
初等教育学科 佐々木絵理香
日本史学科 荒川 優香
商学科 梅津 志帆

初等教育学科44期生
造形表現演習
優秀作品買い上げ
油彩画『自画像』

谷口 茉佑
中村 亮太

第44期卒業生数

()内は第1期生より通算

国文学科	61名	(7,180)
家政学科	48名	(4,649)
初等教育学科	38名	(6,255)
日本史学科	39名	(2,306)
商学科	50名	(2,033)
総数	236名	(22,423)

自分の明日を自分で思い描ける日まで

学長 中村 幸弘

それまで専攻領域の一定の学業を学修させたら、それをベースに、関連する職場で生きていけるものと思っていまして。そうしたら、協調性とか、ほどうい積極性とか、さらには職分に応じた指導

卒業生に贈る言葉



第四十四期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本学での学びは修了しましたが、さらに大学等に進んで学業を積む方、社会人として職に就く方、すぐに家庭に入る方等々、いろいろなかたちで巣立ち行く皆

理 事 長 ・ 学 監 木 村 好 成

力とか、時には決断力とか、そういう能力資質もおのずから湧いてくるものと思っていました。ほほ、そのとおりなのですが、しかし、悔いがない、充実した人生を歩んでいる卒業生は、これから申し上げるような力をもっていました。そう申し上げると、職場では、やっぱり忍耐力だよ、などという人もいます。一方で、嫌なことですが、世渡りの要領さ、とまでいう人もいます。私は、もはや、老人力だけで生かしていた、だいています。鈍感力も、大きな力になること、有名作家の作品にまでなっています。さて、その限られた、すばらしい教え子たちとは、自分の明日を自分

さんですが、前途に幸せ多いことを祈ってやみません。

さて、私自身の人生を振り返りながら皆さんに饒の言葉を贈ります。

それは、学園の中庭に肖像として立っている学園長佐々木周二先生のお言葉です。先生は明治四十五年六月二十四日のお生まれで、間もなく九十九歳になられますが、旧制の中学四年生のときに肺結核で吐血されました。以後闘病生活を送り、七年遅れて中学校を卒業し、東京高等師範学校を経て東京文理科大学教育学部を卒業し、研究科に学ばれました。

在学中から尊徳二宮金次郎の徳を慕われ、報徳思想の研究・実践に力を尽くされ

で思い描ける力をもっていた人たちでした。きょう巣立ちゆく皆さん、全員そうなってください。

厳冬の就職戦線です。そういうなか、既に決定を見た方々、おめでとうございます。いまだ決定に至りえていない方々、編入進学をする方々、まずはご卒業、おめでとうございます。実は、就職決定者として、油断できない世界経済の昨今です。本学は、卒業生に向けても、自分の明日を自分で思い描いて結実させる日まで、キャリア教育の場として学生支援室を提供いたします。私も、お待ちしております。そのお約束をもって、44期生諸君ご卒業の、饒の言葉といたします。

ました。先生が教職に就かれるべく、昭和十九年の久我山中学校の創立に関わられ、本学園の創設運営に携わられ、さらに國學院大學理事長の職を全うされたのも、自立・分度・推譲・勤勉・実直。周囲の人々を励まし、日々新たな気持ちで、一時も休まずに仕事に励まれた結果です。先生のお母様は、病に伏せた分は、「長生きすれば取り返せますよ」と、先生を励まされたということ。健康を取り戻された先生は、ひたすら節制されて白寿の賀を迎えようとされています。今日、ただ今をなすべき事をなし、遅く、直ぐ、明るく、生きなさい。

学園長佐々木周二先生のお言葉です。

声を掛ける

教養科目・教授

佐藤 圭一



昨年の夏、車のトラブルで、夜間に山中で立ち往生しました。レッカー移動が必要でしたが、業者がなかなか決まりませんが、皆さん声を掛けてください。結局ある方のお世話になり、ことなきに至りました。

別れ際に、名前を尋ねましたが名乗ってくれませんでした。後日名前は分かりましたが、感謝してその方のお気持ちを尊重することになりました。

卒業お目出度ございます。皆さんは其々の希望の道を歩み続けます。前途は平坦とは限りません。危急の折には、きつと誰かが声を掛けてくれます。そして、皆さんも声を掛けてください。夜にもかかわらず、山中の私に声を掛けてくれた人たちは、二十代、三十代の人たちでした。

徹底的に辞書を引こう

国文学科長・教授

林 田 孝 和



本学第2代目の学長高崎正秀先生のご遺族から、昨年10月、折口信夫博士の遺品など多数寄贈され、あわせて高崎先生の自著初版本なども送られてきました。

そのなかに『国歌大観』正続四冊（旧版）も含まれていました。この本は、国歌の一句が分かれば、その全体・作者・出典・詞書などが検索でき、そのうえ類型・類句も一目瞭然という便利な辞典です。この本の使い込み方で、真の学者かどうか分かれるといわれています。高崎先生の『国歌大観』は、取れてしまった表紙がガムテープ補強してあるという代物でした。

人間の思考や行動は言語で認識されます。徹底的に辞書を引きましょう。手垢で背文字が消えた辞書が、机の上にあるようにしたいものです。

変化に対応できる力

家政学科長・教授

北 村 奉 正



複雑な社会で生き残るにはどうしたらよいでしょうか。進化論で有名なダーウインは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭の良いものか。そうではない。それは、変化に対応できる生き物だ」という考えを示したと言われています。環境の変化に対応できる能力があれば、個が生き延び、種族が保存できます。

このことは、ヒトについても言えます。社会の変化が激しいので、うまく変わらうるものが生き残れます。うまくいつているから変えないのではなく、もつとうまくいくように変えることも必要です。卒業生の皆さんは、若いので適応力に優れています。今後頭をよく使い、複雑な社会の変化にうまく対応できるよう心がけましょう。

「学び」を生かそう

初等教育学科長・教授

大 西 秀 彦



日本人の平均寿命は、八二・六歳とされています。そのうち、短大での二年間というのは一瞬のうちに過ぎ去る時間です。

この二年間で学んだことは基礎的・基礎的な事柄にしかなるべきです。

それだけではこれからの人生には充分ではありません。さらに自分の力で「学び」、見識を深め、知識を獲得していかねければなりません。「そんなこと、恥ずかしくてできません」、「無理ですよ」と消極的にならず、「難しそうだがやってみよう」、「自分の力を試してみよう」と積極的に挑戦する気概を持つことが大切です。若いときにしか試すことができないのです。

この二年間の「学び」を生かして、あなたの人生を切り開いてほしいものです。

満面の笑み贈る

日本史学科長・教授

酒 寄 雅 志



卒業おめでとうございます。別れは人の世に付きものですが、菅原道真が、渤海国の外交使節である裴頤（はいてい）に贈った送別の詩の一節を紹介してみましよう。裴頤は寛平六年（八九四）に来日し、道真と多くの漢詩を交歓し友情を深めました。別離に望んで「夏の日、渤海大使の帰るに餞す」を贈りました。

るはみな名ある貨（たから）ならむに、君は是れ詞の珠なれども我が涙の珠なるものを。すなわち「去る人残る人もお互い記念の品物を贈り合う。君は見事な珠玉の詩編を贈ったが、私は同じ珠でも涙の粒を贈る」と惜別の悲しみを述べています。しかし私は前途有意な皆さんの将来に期待して、涙ではなく満面の笑みを贈ります。

新しい挑戦

商学科・教授

秋 山 誠 一



皆さんの在学中に世界的な金融危機と経済危機、さらにはギリシャに始まる財政危機が起り、世界経済は大きく動揺しました。就職活動も大変だったでしょう。

また北アフリカ・中東ではインターネットを利用した反政府デモが次々と起り、チュニジア、エジプトでは政権が倒れ、いま世界は大きな転換点を迎えています。皆さんはこの激動の世界に出て行くことになりました。

この二年間でいろいろな知識と考え方を身につけてきました。自分でテーマを選び、調べ、考え、まとめた経験はこの混乱する世界で役に立つと思います。いよいよこれからが本当の挑戦です。自己の能力を知り、絶えず高め、新しい挑戦に踏み出して下さい。卒業おめでとうございます。

はなむけの言葉

— 担任より

これまで・これから

准教授 大山 尚(国2-1)

廊下を駆ける足音、授業のプリント、教室に差し込む陽射し、移動するテレビ、木のイスのカタつく音、チョークのほこり、階段の上り下り、研究室のドア、本において、授業前のざわついた雰囲気、出席票の色、風の強い朝、やけに眠かった午後、帰りぎわの雷雨。

国文学科の学生だったなと思いつく日……。

卒業、おめでとう。

春を待つ

教授 村山 昌俊(国2-2)

卒業おめでとうございます。アメリカの絵本作家・園芸家ターシャ・テューダー女史の言葉を贈ります。NHKの放送で話題になりましたから知っている人もいらっしゃるでしょう。彼女が住んだバーモント州は一年の半分が雪に覆われる寒冷地です。長い冬に耐え、春の訪れをじっと待つ生活を送り続けました。彼女

は、焦らず我慢することができればどんな困難な問題も解決できると言っています。どうかお元気で。

楽しく豊かな食卓を

教授 湯川 晴美(家2-1)

「食べること」は「生きること」の最も基本的な営みです。それだけに豊富で多彩な食べ物に囲まれている今日、食べ物の宣伝や情報に左右されない考えが必要です。間違ったダイエットなどは健康を害してしまいます。二年間、家政学科で勉強したことを基に、楽しい豊かな食卓を作っていくて下さい。

卒業おめでとう

講師 永田 晴子(家2-2)

24名全員で、この日を迎えられることを、とても嬉しく思っています。

これから、社会人として新生活をスタートする方、進学しより一層勉学に励む方、卒業後の進路はそれぞれですが、短大での二年間に身に付けた力を活かし、次のステップで

も、笑顔を忘れずにがんばってください。素敵な女性に成長した皆さんに再会できる日を楽しみにしています。

御卒業おめでとう！

教授 小川 裕二(初2-1)

御卒業おめでとうございませう。二年間の短い期間でしたが、皆様にお会いできて本当に幸せでした。

皆様はこれから、人生の荒波に向かって船出して行くわけですが、例えば苦しい局面に遭遇した時に乗り切っていく精神力は、健康な体により維持されます。いつも健康を保って、幸せな人生を送って下さい。これからの皆様の御健闘を祈って止みません。

いつでも夢を

教授 後藤 正人(初2-2)

老若男女、常に夢や希望を抱いている人には、強いエネルギーが湧き、人が集まります。昨日の夢は今日の希望につながり、明日の感動となります。夢は人からもらうのではなく、自分で掴むものです。失敗は夢実現への確実な一歩。一日一生のつもりで、これまであなたが学んだ全ての力を存分に発揮して下さい。新た

な出発の時を心からお祝い申し上げます。

誠実を胸に刻む

教授 鍛代 敏雄(史2-1)

フランスの詩人ルイアラゴンの言葉です。

教えるとは、希望を語ること。学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。

私の研究室に板書してあります。このような「時代」だからこそ、いまのような「世間」だからこそ、とくに教育の場においては、理想を追い求めたいものです。

何事にも正直に、誠実であることをつよく希望します。

「活躍を祈る」

教授 松本 隆晴(史2-2)

卒業おめでとうございます。今年になって、エジプトやリビアなどの国々で、将来歴史に特記されるような重大な事件が勃発し進行しています。

縁があつて皆さんと本学で歴史を共に学んできました。

これから皆さんが進む社会も、世界情勢と無縁ではなく、厳しく難題もあることでしょう。どのような状況に出会っても、歴史の心で長く広い視点で対応し活躍することを願っています。

ます。

未来を拓く力を

教授 中塩 聖司(商2-1)

この二年間は、内外の構造の大転換期でもありました。その行方はまだ見えませんが、それを解く鍵は皆さんの内にあります。中東の例にあるように社会は幸福を求める人々の考えと行動のベクトルで動きます。どのような未来にするかは、皆さんの判断の合成です。その際、経済学の格言「冷静に考えながらも温かい心をもつ」を忘れないで下さい。いつまでもお元気で。

いそがなくてもいいんだよ

教授 寺崎 宣昭(商2-2)

詩人 岸田 鈴子は「南の絵本」という詩のなかで「いそがなくなつていいんだよ」と呼びかける。「ゆつくり歩いていけば／明日には間に合わなくても／来世の村に辿りつくだろう」。私たちは、日々の生活のなかで、あわただしく生きている。何をそんなに急いでいるのか。人生、急がなくてもいいんだよ。

卒業おめでとう。

「急ぐなかれ、休むなかれ」

一期一会

第44期生 学生会長

中村 伸子

学生会の活動
では、あまり年
齢の変わらない
先輩方のT.P.O

山々にも新しい生命の芽吹き
が感じられる今日の佳き日に私
たち第44期生は卒業を迎えるこ
とができました。こうして卒業
を迎えられたのも中村学長先生
をはじめとする素晴らしい先生
方、職員の方々のご指導と支え
があつたからこそ感じしていま
す。心より御礼申し上げます。
そして、いつも暖かく見守り國
學院大學栃木短期大学に通わせ
てくれた両親への感謝の気持ち
でいっぱいです。

期待と不安を胸に抱きつつ入
学してから早いもので二年が経
ちました。これまでの学生生活
を振り返ると勉学、学生会、サ
ークル活動と実り多いものでし
た。勉学面では教養や専門など
様々な領域を深く学び、同じ目
標を持つ仲間と切磋琢磨しお互
いを高め合うことができたと思
います。授業中、時に教科書に
ないためになる先生の体験談は
貴重な教材としてより関心を持
って学べました。本学での学び
が夢の実現へと近づけてしてく
れると思います。

こうして二年間の学生生活を
送れたのも、一年間会長の役職
を続けることができたのも一期
一会の出会いと支えて下さった
方々のおかげと思っています。
私たちはこれからそれぞれ違う
道を歩み始めますが、感謝の気
持ちは忘れず支えて下さった全
ての方々に還元していきたいと
思います。

第44期生のあゆみ

平成21年度（1年次）

4. 6	第44回入学式(248名)
4. 7	学長講演
4. 7～11	オリエンテーション・健康診断
4. 10～11	商学科合宿研修
4. 20	履修届提出
4. 22	日光親睦旅行
5. 13	体育祭
5. 27	インターンシップのすすめ
6. 6	歌舞伎鑑賞教室
6. 17	初等教育学科幼稚園・小学校視察
6. 18～20	初等教育学科あきやま学寮宿泊研修
7. 1	職業意識啓発セミナー
7. 27～30	集中講義・補習講義
7. 31～8. 6	前期試験
8. 7	日本史学科史料調査
8. 8	日本史学科群馬県立歴史博物館見学
8. 7～9. 27	夏季休暇
9. 7～10	集中講義・補習講義
9. 15～22	日本史学科考古学実習発掘調査(栃木市)
9. 19	後期履修届提出
9. 25	日本史学科栃木県立博物館実務見学
9. 26	国文学科文学散歩
10. 9	学園創立49周年記念式典
10. 9	学園創立記念日
10. 14～15	秋季研修旅行
10. 21	マイナビの登録の仕方と活用法
10. 21・28	就職実践模試
11. 11	国文学科講演会
11. 22～23	第43回春花祭
12. 2	先輩の就職活動体験談
12. 21～24	集中講義・補習講義
12. 21～22	日本史学科古文書調査実習
12. 25～1. 6	冬季休暇
1. 13	就職実践指導ガイダンス
1. 28～2. 1	集中講義・補習講義
1. 29	商学科今市発電所見学
2. 2～9	後期試験
2. 10	進路ガイダンス
2. 11	第32回合唱団定期演奏会
2. 12	家政学科フード系見学会
2. 15	日本史学科史学会総会・卒業研究発表会
2. 16	家政学科赤十字救急法基礎講習会
3. 18	第43回卒業式

平成22年度（2年次）

4. 2～3	国文学科コース別研修旅行
4. 7	第45回入学式・成績表交付
4. 8～13	オリエンテーション・健康診断
4. 13	学長講演
4. 20	履修届提出
5. 12	体育祭(バレーボール大会)
6. 7～7. 3	国文・家政・初等教育・日本史学科教育実習 幼・保コース (～19 ～26)
7. 28～8. 3	集中講義・補習講義
8. 4～11	前期試験
8. 5～7	日本史学科古文書調査実習
8. 10～8. 17	日本史学科考古学フィールドワーク(栃木市)
8. 12～9. 26	夏季休暇
8. 17～30	初等教育学科幼・保コース保育所実習
9. 6～18	初等教育学科幼・保コース教育実習
9. 10～15	集中講義・補習講義
9. 18	後期履修届提出
10. 2	初等教育学科講演会
10. 8	奉告祭・物故者慰霊祭
10. 9	学園創立50周年記念式典
10. 9	学園創立記念日
10. 16	家政学科医療管理秘書士能力認定試験
10. 20	初等教育学科教育実習報告会
10. 27	日本史学科記念講演会
11. 2～3	第44回春花祭
11. 17	国文学科公開講演会
11. 17	初等教育学科保育所実習報告会
11. 20	家政学科医療事務士能力認定試験
12. 6～10	国文学科・日本史学科 卒業研究提出
12. 8	家政学科教育実習・臨床実習発表会
12. 19	家政学科フードスペシャリスト認定試験
12. 20～25	集中講義・補習講義
12. 26～1. 6	冬季休暇
1. 21	初等教育学科 卒業研究・制作提出
1. 28～2. 4	集中講義・補習講義
1. 30	第33回合唱団定期演奏会
2. 5～12	後期試験
2. 17～18	初等教育学科筑波大附属小参観
2. 23	日本史学科卒業研究発表会
2. 26	卒業確定者発表
3. 17	卒業式予行
3. 18	第44回卒業式(236名)

お疲れさまでした
— 退任の弁 —

自然は飛躍せず

教授 室井一夫



私は、大学時代に経済学を学び、イギリスの経済学者アルフレッド・マーシャルが標語としていた「自然は飛躍せず」(Natura non facit saltum)というラテン語の言葉を大切に考える方に感銘を受けた。調べてみると、アリストテレス、ライプニッツ、リンネ等もこの言葉を使っている。自然の変化は一つ無駄なことをせず、変化は一挙に起こるものでなく、徐々に時間を掛けて行なわれると説いている。

変化の激しい現代において、「瓢箪から駒」や努力なく手を出し期待する向きがある。しかし、人間界はそうであつても自然界は飛躍しないのである。人類の歴史は、脅威として存在した自然の征服の歴史でもある。自然を征服した

ことが、災害や逆襲、さらに地球温暖化など拡大する危険性に直面している。人類の驕る危機であると同時に人間の地道で継続する努力の大切さを問うている。「自然は飛躍せず」であり、「ローマは一日にしてならず」すなわち、「人間にも飛躍はない」と言っているようである。私は、この言葉を大切にしている。ありがとうございます。

感謝を込めて

教授 渡辺千歳



今日、私が担当する初等教育学学科一年生の教育実習と保育所実習の訪問指導が終わりました。どの園でも本学の実習生はお褒めの言葉を頂戴しました。幼稚園・保育コースがスタートして二年目ですが、長年、小学校および幼稚園に優秀な人材を送り出してきた本学の伝統が、確実に今の学生たちにも受け継がれているのだと実感しました。小手先の技術ではなく、教育・

保育の本質に気づき、子どもを見る視点を養うという理念が息づいているのだと思います。そのような初等教育学科の一員として九年間を過ごしました。

その中で一番の出来事は、時代の変化に応じるために、保育士養成課程を開設したこととです。随分前に企画されたものの立ち消えていたこのプロジェクトを、当時の学科長山口令司先生の強い意志を推進力に、学科と事務局が一丸となつて実現させました。このメンバーに加えていただいたことを大変光栄に思っています。

離あられのような甘い色に包まれる春の太平山が大好きでした。本学の発展と卒業生、学生、教職員の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

フイニッシュ&スタート

講師 人見亮子



高速度道路を走り抜け、正門の急な坂道を登りきると、ひ

とまずほっとする瞬間があり、5時限を終えて帰路につく冬季6時過ぎの高速度道路は、苦手でした。

一年目は、無我夢中で過ぎ、二年目もあつと言う間でした。また、今年は、創立50周年を迎えた記念すべき年に、本学に籍を置かせていただいた事はとても光栄に思います。

最後の一年生の授業の際、学生から「先生、来年度もよろしく願います。」と屈託のない笑顔を向けられた時には、ぐっと胸に詰まる思いがしました。(ごめん：みんなの事は忘れないわと) 本学での二年間は、私の人生にいろどりを添えてくれました。

これからは、何時でも一番大きな位置を占めていたライフワークから解放され、枠のない自由な時間を楽しみたいと思っております。

私が望んでいるこれからは、『優優自適』のびやかで、やさしく、ゆつくりと過ごしながら、自分らしく生きることです。今、幸せな気分之余力を残し、退任出来た事は、皆様のご支援があったればこそと、心から感謝申し上げますと共に、本学の益々のご発展

をお祈りいたします。

太平台での半世紀

学生課 仁戸部 幸子



私の人生の大半は、ここ太平台での生活でした。昭和35年4月高等学校に第一回生として入学し卒業と同時に本学園の経理課に勤務しその後短期大学学生課に異動となり、昨年3月定年で退職しました。本年度一年間嘱託として勤務しましたので、51年間の本学園での生活でした。

仕事に鈍重な私でしたが、周囲の皆様のご指導やご協力によりましてつつがなく勤務を終えることになりました。私はいろいろな仕事に携わってまいりましたが、常に「誠実さ」を忘れず、仕事に取り組んでまいりました。半世紀に及ぶ太平台の生活も今終ります。本学園関係の皆様へ感謝し、ご健康とご多幸とますますのご発展を心よりお祈りいたします。本当にありがとうございます。

第2回FD研修会を開催

—初めての試みの公開授業—

1月19日、第二回FD研修会が開催され、公開授業が行われた。

まず午後2時45分から3時30分までの45分間、二会場に分かれて授業が行われた。その後、午後5時まで参観した。

授業をめぐる、参加者相互の意見交換がなされた。

教職員の関心は高く、全教員と職員が参加し、

第一会場の七三四番教室では、教養科目の石山育朗教授

による講座「スポーツ健康科学AⅡ」で、商

学科の学生を対象に「メタボになんか

るものか!」の講義が、パワーポイントを使用して行われた。

第二会場の七三五番教室では、国文学科の大山尚准教授

による講座「創作文芸入門(児童文学・絵本)」の授業が、国文学科の学生とともに行われた。ライトノベルを素材に文章の書き方や、ものの見方を講義した。

公開授業は、授業改善の工夫を教員同士が共有することを目指すのが、本学では初めての試みであった。

教員は日頃学生に講義科目を教授することを通じて、さまざまな知識・情報、見方や価値観などを学生に伝えようと日々努力している。

しかしどうしても独善的な授業がちなので、他の教員の授業を参観することは大いに参考になる。今回の授業によ



パワーポイントを使用して講義する石山育朗教授



ライトノベルを素材に講義する大山尚准教授

って、各自啓発されるところが多かったと思われる。

後日行われたFD委員会の反省会では、授業時間が45分と変則的であったため、日常的な授業の展開ができなかったのではないかと。また学期全体の講義計画で、今回の授業がどのような位置付けになるのか。意見交換会の議論の進め方が難しいという意見や、意見を行うにも遠慮や戸惑いがあるなど、今後、改善していくべき点が指摘された。

初めての公開授業でもあり、いくつかの課題が残ったものの、教職員にとって有益であったことは疑いない。

入試問題説明会

教育センターにおいて開催

1月22日、本学園教育センターにおいて、「入試問題説明会」をはじめ開催した。本会を企画した学務推進委員会では、中村幸弘学長の諸問にこたえて学生募集の推進について審議するとともに、センター型入試にあわせた、A・B方式(筆記試験)の説明会を検討した。



受験生からの相談を受ける担当教員

本会の趣旨は、本学を受験する受験生に対し、今後の入試制度の正確な情報を伝達すること。また、特に筆記試験について、直前の入試問題説明会を実施し、設問の意図と

その傾向を説明しながら、教育的配慮のもと適正な対策と学習方法を通知するところにある。

そこで、まずは本学ホームページ上に実施要項を掲載し、あわせて県内および周辺の高校へは案内状を送付して、広報につとめた。

当日は、入試委員長・広報委員長・教務部に依頼し、午前11時から午後1時まで二つのブースを設けて説明会と相談会を行った。その後、午後1時から2時まで「国語(千明守教授)」、同10分から3時10分まで「英語(山本博子教授)」、同20分から4時20分まで「日本史(鍛代敏雄教授)」と、各科目ごとに入試問題解説の授業が行われた。

今回は初めての試みであり、参加者数は予想できなかったが、生徒9名・父母9名で、神奈川県からの参加もみられた。

次年度にむけては、実施時期を考慮した上で、再検討したいと考えている。

国文学科

郷土文芸実地踏査

さる2月2日に、民俗文芸講読（郷土文芸）の後期文学散歩が実施された。前期（9月22日）は猛暑の中汗だくの見学であったが、今回は対照的に厳寒の中、白い息を吐きながら行われた。参加者は学生が19名、引率教員が2名の計21名で、学園のバスを利用した。

見学地としては、室の八島・下野国府跡・風土記の丘資料館・三嵎山の万葉歌碑・浅沼八幡宮のおしどり塚、村檜神社・大慈寺・小野小町のお墓、そして最後に大中正を見学し栃木駅で解散となった。前期・後期ともに十分な成果を得ることができたと思う。



大中正で記念撮影

家政学科

赤十字救急法救急員講習

家政学科二年生養護教諭課程履修者20名を対象に、日本赤十字社による講習が12月20日、21日の両日、指導員2名を招いて行われた。この講習は一年次に基礎講習を受講し、認定証を持つ学生が次のステップに進むための講習となっている。学生たちは熱心な受講態度で、今回も全員が認定試験をクリアし、救急員の資格を取得した。今後、これらの知識と技術を活かし養護教諭として学校現場や地域社会のあらゆる救急現場において活躍を期待したい。

フード系見学会

暮も押し迫った12月22日、フードスペシャリストを目指す一年生5名を対象にフード系見学会が実施された。

まず栃木県南公設地方卸売市場を訪問し、市場の役割等に関する説明を受けた後、花卉のせりを見学した。学生たちは市場の大きさや廃棄された包装材の処理方法に感銘を

受けていた。

次いで、道の駅思川を経て、フレンチレストラン向日葵でテーブルマナーを学びながら昼食を摂った。午後は、森永製菓小山工場を訪問した。本工場は日本の菓子業界で初めて環境マネジメントISO14001の認証を受けており、徹底した衛生管理と環境保全の取り組み方を体験した。少人数の見学会であったが、フードス



森永製菓株式会社小山工場で記念撮影

初等教育学科

第33回定期演奏会

毎年恒例の定期演奏会は、今年で33回目を迎え、1月30

ペシヤリスト取得に向けて大きな刺激を受けたようである。



力強く歌い上げる本学合唱団

日午後2時から、栃木市文化会館大ホールで行われた。第1ステージの本学合唱団による学生歌「芙蓉を仰ぐ」によりコンサートはスタートを切った。続いて初等教育学科一年生女子と本学合唱団、それに本学合唱団OGを合わせて総勢約100名による女声合唱組曲「旅」、次に初等教育学科一年生男子と二年生の合唱と室内楽研究会のアンサンブルで「明日があるさ」「涙そうそう」のステージ。小憩後、第2部は室内楽研究会による打楽器アンサンブルや「おじいさんの時計」など四つのグループの器楽合奏の演奏があり、続いて、小川裕二教授の独唱。いつもと趣向を変え、「さとうきび畑」を演奏した。

教育実習・保育実習

第3部は本学合唱団の演奏で、「富山に伝わる三つの民謡」などが力強いハーモニーで歌い上げられ、今年の定期演奏会を閉めくつた。充実した内容の演奏会となり、学生達の表情も満足気であった。

初等教育学科一年生小・コース35名を対象に、2月14日から2月18日まで教育実習Ⅱが行われた。栃木市の5園に26名、2校に9名が赴いた。同じく幼・保コース40名を対象に、2月14日から2月26日まで保育所実習Ⅰが行われた。栃木市の6園に8名、岩舟町の2所に2名、小山市の8所に10名、宇都宮市の4園に5名、さくら市の2園に2名、真岡市の3所に3名、下野市の4園に4名、鹿沼市の2園に2名、佐野市の2園に2名、足利市の2所に2名が赴いた。いずれも初めての実習であったが、これまでの学びを基本にした総合的な実践の様子が見られた。しかし、風邪等の欠勤が例年よりも多かったことを考えると、自己管理の徹底、配慮が喫緊の課題である

初等教育学科幼・保コース二年生の総合演習（石川昌紀講師担当）履修者を対象に、さる12月20日、栃木市にある障害児通園施設「キッズホームとちぎ」へ観察・調査に赴いた。8月12日に続き二度目となる今回は、縦断的発達の変化を捉え、保育臨床的視点

ディサビース観察

といえる。実習後の学生からは、「自身の学びを問い直すきっかけが得られた。」などの感想があり、教職や保育に携わる専門職に対する認識と今後の方向性が明確になったようだ。何よりも、教育・保育の営みを通して、子ども理解をさらに深めてほしいと願う。



保育園のマラソン大会でメダルをもらい満面の笑みの園児たち

2月17・18日の両日、社団

筑波大附属小観察

信する。管理責任者の厚木悦子先生からは、学生の育ちが実感できたとお褒めの言葉をいただいた。諸先生方のご尽力に感謝申し上げます。



実際に子どもたちとふれ合い理解を深める

での子ども理解を深めるねらいがあった。当日は、子どもたちのかかわり、講話、専門職と母親へのインタビュ調査を行った。総括として、専門職と当該施設の役割・魅力を明らかにした結果から共同でリーフレットの作成をした。療育・養育・保育の機微を通して、子ども・親・専門職の思いを探究できた学生たちは、今までの保育の枠組みから保育観を再考できたと確

2月23日、本学園教育センターにおいて、國學院大學栃木短期大学史学会総会ならびに日本史学科卒業研究発表会が開催された。史学会総会終了後、卒業研究の口頭発表が行われた。また、二階アトリギャラリーで卒業研究ポスター発表が実施された。

口頭発表は、次の通り。

卒業研究発表会

日本史学科

参加した学生にとつて貴重な体験ができた一日であった。

法人「初等教育研究会」による「学習公開・初等教育研修会」が筑波大学附属小学校（東京都文京区）を会場にして開催された。

この研修会では、各教科や道徳、総合的な学習、英語活動、学校保健活動などの授業が公開され、公開された授業をもとに、徹底した討議が行われた。午後からは、全国の優れた研究者や実践家による発表や討議が行われた。来年度から新教育課程が完全実施されることもあり、どの会場も熱気にあふれていた。

日産自動車工場見学

2月3日、商学科一年生

商学科

中澤 真二（近代史）
「幕末・維新期における武家の女性史」
大島 育恵（考古学）
「日本犬の成立と歴史」
川島 千春（東洋史）
「魏の太祖曹操の研究」

小林めぐみ（古代史）
「古代の服飾」
——高松塚古墳を中心に——
沼子なつき（中世史）
「香から見た武士の文芸」
山形 美樹（近世史）
「化政期における幕府政治の研究」



発表はプロジェクターなどを使って行われた



興味深く展示車に見入る学生

対象にした工場見学会が行われた。見学場所は、栃木県上三川町にある日産栃木工場である。教室に集合して事前説明をしたあと、12時に目的地へ向けて出発した。

工場見学は13時16分から15時16分まで行われた。最初に広報ビデオが上映され、日産職員から工場の概要説明があった。その後、約一時間のコースで製造工程を見学した。見学後、日産職員から100%電気自動車「LEAF（リーフ）」について説明があった。最後に、学生から出された様々な質問への丁寧な回答を受け、16時18分に帰校した。

過去の経験、今の努力、未来への希望と意欲を大切に

平成22年度 進路支援

■今年度を振り返って

当初から「就職難」・「超就職氷河期」と称され、平成8年の「就職氷河期」以来最低の内定率となった今年度は、かなり苦戦を強いられた。しかしながら、その状況下でも内定を獲得できる学生がいるのも事実である。

求められるのは「コミュニケーション能力」と言われて久しいが、他にも「主体性」「積極性」「実践力」「判断力」「人間力」

「常識」……とさまざまである。

知っていることとできることは違うと言うように、まず最初の一步を踏み出し、実際に行動して経験し、自ら進むべき道を切り拓く力が不可欠である。

■二年生に対する進路支援

4月の就職ガイダンス以降は、個別対応での指導を徹底した。昨年12月15日には学外から講師を招き、未内定者を対象にガイダンスを実施した。現状においても就職に対する意欲と活動次第で内定は獲得できると伝え、自発的な活動を促した。

■一年生に対する進路支援

昨年度の状況を踏まえて、次の通りガイダンス等を実施した。(1)5月26日職業意識啓発セミナー(2)6月30日語彙・読解力フィードバック(3)7月21日マイナビの登録の仕方と活用法(4)11月24日一般企業・医療・幼稚園内定者による先輩の就職活動体験談(5)2月14日分野別進路ガイダンス

■分野別進路ガイダンス

2月14日、735番教室で一年生対象の分野別進路ガイダンスが三部構成で行われた。

▽第一部「就職活動の実践的セミナー」

最初に石坂昌園学生課長より、就職活動に対する意識の持ち方や心得が話された。

その後、「最近のニュースから関心事となった出来事」また「なぜその事柄が印象深いのか」という課題において、各自がレポートを作成することにより、自分の意見を人に理解してもらえようように伝えることの重要性を学んだ。つづいて、ハローワー



講師の寺内吉一氏とグループでディスカッションをする学生

ク栃木大卒就職ジョブサポーター寺内吉一氏を講師に迎え、配布資料に基づき、若年者の労働環境や就職活動のポイントについてお話しいただいた。その後実践として、誤った書き方の履歴書を学生一人ひとりが校正して発表した。また、「砂漠で遭

難したらどうなるか」というテーマで、思考能力や判断能力を必要とするインバスケツト方式を用いたディスカッションが行われた。10名程度のグループ内で各自が役割を分担し、時間配分に注意しながら議論を進めた。おわりにあたり、寺内氏より仕事ができることへの感謝の念を忘れずに就職活動に臨んでほしいと助言いただいた。

▽第二部「教員・公務員採用試

験について

大島澄子学生支援室主任が担当し、公務員・教員採用試験等の種類と形態、試験日程などの説明がされた。

▽第三部「編入学について」

白山実教務課長が担当し、編入学試験の概要と傾向、本学の実績等について、今後のスケジュールに基づいて説明された。

■ハローワーク等の就職支援

昨年10月に全国のハローワーク（公共職業安定所）に大卒就職ジョブサポーターが配置された。12月2日には本学内に出張

相談窓口を開設し、ハローワーク栃木大卒就職ジョブサポーター寺内吉一氏が毎週木曜日13時から16時まで、学生相談室において就職活動の支援、未就職者に対する職業紹介や職業訓練の案内などを行った。12月以降ハローワークの求人に応募し数名の学生が内定している。他にも、各都道府県に「新卒応援ハローワーク」や「ジョブカフェ」などが設けられており、新規卒業者や若年者に対する就職支援がなされているので積極的に利用していただきたい。

第44期生 編入学速報

◎國學院大學編入学試験結果（系列編入学合格者）

文学部日本文学科 フレックスB	国文学科 (19)
文学部日本文学科 フレックスA	国文学科 (1)
文学部中国文学科 フレックスB	国文学科 (0)
文学部史学科 フレックスB	日本史学科 (16)
文学部史学科 フレックスA	日本史学科 (0)
経済学部経済学科	商学科 (7)
経済学部経済ネットワーク学科	商学科 (3)
経済学部経営学科	商学科 (2)
人間開発学部初等教育学科	初等教育学科 (3)

◎他大学編入学試験結果

東京福祉大学 心理学部心理学科	国文学科 (1)
和洋女子大学 人文学部日本文学文化学類	国文学科 (1)
埼玉県立大学 保健医療福祉学部健康開発学科	家政学科 (5)
大阪教育大学 第二部小学校教員養成課程	初等教育学科 (1)
東北学院大学 文学部歴史学科	日本史学科 (1)
金沢学院大学 文学部日本文学科	日本史学科 (1)
金沢学院大学 美術文化学部文化財学科	日本史学科 (1)

※（ ）内は人数／平成23年3月5日現在

平成22年度国文学科公開講座 夢の文学史

2月19日	万葉びとの夢	名誉教授	小林 吉一
2月26日	王朝びとの夢	教授 博士(文学)	林田 孝和
3月 5日	中世の人々は (夢)に何を見たか	教授	千明 守
3月12日	芭蕉文学に見える夢	教授	塚越 義幸
3月19日	西鶴文学に見える夢	教授	田中 憲二
3月26日	漱石「夢十夜」前後	教授	岡本 岱
(時間) 14:00～15:30 (場所) 学園教育センター			

事 報

■行事・集会■

- 12月 1日・15日 家政学科先輩の就職体験談
 6日～10日 国文・日本史学科卒業研究提出
 8日 家政学科2年生教育実習・臨床実習発表会
 19日 フードスペシャリスト認定試験
 20日～25日 集中講義・補習講義
 20日～21日 家政学科2年生赤十字救急法教員養成講習
 20日～21日 日本史学科古文書調査実習
 22日 家政学科1年生フード系見学会
 26日～1月6日 冬季休暇
- 1月 7日 授業再開
 21日 初等教育学科卒業研究・制作提出
 28日～2月4日 集中講義・補習講義
 30日 第33回定期演奏会
- 2月 2日 国文学科1年生民俗芸講義郷土芸実地踏査
 3日 商学科1年生日産自動車工場見学
 4日 後期レポート提出
 5日～12日 後期試験
 7日 A方式・センター型・奨学生・國大受験者対象入学試験
 14日 分野別進路ガイダンス
 14日～18日 初等教育学科1年小・幼コース教育実習Ⅱ
 14日～26日 初等教育学科1年幼・保コース保育実習
 16日 家政学科2年生二杉幼稚園観察
 17日 後期試験結果発表
 17日～18日 初等教育学科筑波大学附属小学校参観
 18日～19日 國大編入者入学前ガイダンス
 21日～24日 後期追・再試験
 23日 日本史学科卒業研究発表会
 26日 卒業確定者発表
- 3月 3日・16日 初等教育学科1年幼・保コース施設観察
 9日 B方式・センター型・國大受験者対象入学試験
 17日 卒業式予行
 18日 第44回卒業式

■ 本学および関係者出版紹介 ■

- 本学国文学会発行 野州國文學第84号
 ○本学初等教育学科発行 夏期教育研修の記録第43号
 ○本学史学会発行 栃木史学第25号
 ○本学商学会発行 國學院商学第20号
 ○元科目等履修生 神山奉子著「短篇集Ⅱ 金銀甘茶」下野新聞社刊

卒業生の皆さまへ

卒業生の皆さんと大学との連絡窓口は教学部です。各種証明書の交付申請等、詳しくは本学のホームページ【卒業生の方】事務局告知板をご覧ください。また、図書館では、閲覧・貸出・複写サービスを行っています。卒業後もぜひご利用ください。

本学ホームページアドレス

<http://www.kokugakuintochigi.ac.jp/tandai/>

平成22年度 サークル・ゼミ活動報告

団体別／平常活動以外の合宿・遠征等

団体名	期間	内 容
美術史演習履修者	7.11	山種美術館見学
寺崎ゼミ	9.1～9.2	卒業研究経過報告会
中塩ゼミ	9.16～9.17	ゼミ論文検討会
堀江ゼミ	8.30～9.1	卒業研究中間報告会
近世史研究会	4.29 8.31～9.1 9.24～9.25	江戸東京博物館見学 徳川美術館・名古屋城見学 横浜開港資料館・横浜都市発展記念館等見学
考古学研究会	8.10～8.17	円通寺遺跡発掘調査
古代史研究会	8.23～8.25	京都・奈良の寺院・史跡見学
古文書研究会	8.20	卒業研究のための文献収集
コース部	8.11～8.13 1.5～1.6 1.29 1.30	1年生歓迎会・定期演奏会の譜読み 定期演奏会の練習 定期演奏会リハーサル 第33回定期演奏会に参加
室内楽研究会	11.23 11.28 12.12	アンサンブルコンテストのためのホール練習 栃木市おおひら産業祭で演奏 第3回県南地区アンサンブルコンテストに出場 打楽器4重奏(獅子神楽)：金賞受賞【代表】 打楽器4重奏(エオリアン)：銀賞受賞 打楽器5重奏：銀賞受賞
写真部	12.23	第42回栃木県アンサンブルコンテストに出場 打楽器4重奏(獅子神楽)：金賞受賞【代表】 第16回東関東アンサンブルコンテストに出場 打楽器4重奏(獅子神楽)：銀賞受賞
箏曲部	1.21～1.22 1.29 1.30	定期演奏会リハーサル 第33回定期演奏会に参加
中世史研究会	8.26～8.27 10.23～10.24 11.21	知識と技術向上のための練習と親睦会 新花祭の強化稽古 技術向上のため小山市民文化祭邦楽祭で演奏
東洋史研究会	8.12 9.16～9.17	卒業研究のための文献収集 彦根城・彦根博物館・安土城跡・安土考古博物館見学
人形劇部	7.19 8.7	東京国立博物館・不忍池・旧岩崎邸見学 国立国会図書館見学・神田古書街で文献収集
博物館研究会	12.12	第33回定期公演 演目「赤ずきんちゃん」
フォークソング部	4.29	江戸東京博物館見学
みたらし会	5.22 8.11 4.24～1.22 4.28～1.26 5.15～5.16 5.29 5.31 6.5 10.23～10.24 10.24 11.12～11.14 11.27 12.11～12.12 12.11～12.12 12.18～12.19 12.19 1.27 2.24 2.15/3.13 2.17	新入生歓迎ライブ 新花祭のための演奏会 おもちゃ図書館でボランティア 26日 4. 24/6. 8/5. 22/6. 26/7. 10/1. 22 放課後こども教室でボランティア 27日 4. 28/5. 26/6. 30/10. 27/11. 24/12. 22/1. 26 ゆーあい工房まつりの準備と運営補助 ボランティア団体たんぽぽの総会に参加 試写会ボランティア事前打ち合わせ 映画「いのちの山河」試写会のボランティア とちぎ市協働まつりのボランティア とちぎ秋まつり伝承人ボランティア養成講座受講 とちぎ秋まつり伝承人ボランティアとして参加 栃木市文化祭に参加 おもちゃ図書館でクリスマス会開催 壬生町おもちゃ博物館でバザーの補助 喜多川歌麿筆画展覧会の準備 日本語スピーチコンテスト・交流会に参加 地域の方との交流会 フードバンクの学習会に参加 とちぎ市民活動推進センターくらのイベントに参加 養護老人ホームあすさの里でボランティア
民俗学研究会	8.29～8.30	那須烏山市三箇塚の天祭の探訪
落語研究会	9.21	新宿末広亭で落語鑑賞
テニス部	9.2～9.4	技術向上のための練習と親睦会
軟式野球同好会	8.11 8.12 9.26 11.14	社会人チーム READ ZONE との練習試合 白鷲大学との練習試合 第17回栃木県読売会会長杯争奪野球大会出場 社会人野球チームとの練習試合
バドミントン部	9.20～9.22	体力作りと親睦会
バレーボール部	7.17 11.26～11.27	佐野短期大学との練習試合 新旧役員の引き継ぎ
学生会	2.17	2年生を送る会

もとつころ



丸本家より寄贈を受け、
西1号館前通路に設置
された三坂耿一郎先生作
『壺中天』

平成二十二年十二月、故丸本喜一教授（元初等教育学学科理科担当）の所蔵彫刻『壺中天』が、ご遺族丸本修様のご厚意により本学園に寄贈されました。この彫刻は、日本芸術院会員であった故三坂耿一郎教授（元初等教育学学科美術担当）の作品で、昭和五十三年の日展で日本芸術院賞を受賞した由緒ある作品です。両先生の生前の親交の証であるこの作品が学園に託され、学生の情操と美的感性を育むうえで役立つことを嬉しく思います。



『佐々木周二先生』寿像
と『梟』（中庭）

私が三坂先生を知ったのは、昭和三十一年に久我山中学高校に奉職したときでした。当時の木造校舎の正面玄関に設置されていた青年男子の裸の座像が、三坂先生が在職中の第三回日展（昭和二十二年）に出品し、初めて特選となっ

た「青年時代」であることを知りました。先生は、昭和十九年四月開校時の旧制久我山中学校の職員で、退職後も折にふれて久我山に見えておられました。間もなく校長の佐々木周二先生と三坂先生の交わりの深さを知り、また先生の次男玄君が久我山に入學して、柔道部に入部し私の教え子となり、先生との係わりが深くなったのです。

私が栃木学園に移って短期大学の創設の仕事に携わり、佐々木先生の仕事をより緊密にお手伝いするようになり、昭和四十四年に初等教育学科が増設され、佐々木先生の構想にあったこととして三坂先生が美術担当の教授に就任されました。先生は、敬愛する親友佐々木先生を補佐する立場の私を、年の離れた同僚として遇してくださいました。先生のお人柄は接した者が誰でも感じるように、隔てのない、誠意に満ちた、優しく温かく、ユーモア溢れるお人で、片時も傍らを離れたくないように感じさせました。先生には人と



『女童』（西2号館前）



『朗抱』（西1号館前）

しての生き方についても、長いお付き合いの間に言葉や作品を通じて、多くのことを教えていただきました。

三坂先生の人と作風は、当代随一の見識の確かな美術評論家河北倫明氏からも高い評価を受けていました。先生と同世代の多くの大家が、作風を固定しマンネリ化していた中で、先生の作品は常に高きを目指し、深みをまわっていたように思います。

先生のご逝去は早すぎました。日展や日彫展で、先生とあの和やかな一刻がもてなくなつて久しい今、新たに本学



『母子像』（二杉幼稚園）



『チュールの少女』（睦会館）

『翔』（栃本市立図書館）



園に名作『壺中天』（昭和五十三年制作）がもたらされ、創立四十周年記念館への通路脇に設置されました。この彫刻の味わいに触れ若者たちの心を豊かにしてくれることを願っています。

学園には他に五つの三坂先生の彫刻があります。「壺中天」に並んでいる「女童」（昭和四十九年制作）、短大西一号館前の「朗抱」（昭和四十六年制作）、本館と生徒会館の間の中庭にある「佐々木周二先生と梟の像」（昭和六十年・六十二年制作）、睦会館前の「チュールの少女」（昭和五十二年制作）、二杉幼稚園の「母子像」（昭和五十年制作）があります。また、栃本市立図書館には『翔』が設置されています。（好）